

ドーム工事順調に進む

愛称募集には

約3,000点の応募

大館地区多目的ドーム(仮称)

関連事業の進捗よく状況について

ドーム本体工事は、現在、屋根の組立工事及び屋根膜張工事が行われ、八月末現在で約五六%の進捗よく率となっています。また、市が発注したパークセンター等の周辺整備工事も六月二十四日に着手し順調に進んでいます。ドーム本体工事が進むにつれ、市内外からの見学者が日増しに増え、二回の見学会を含め八月末までに二千人を超えています。見学者からはスケールの大きさに對する驚きの声やドームに寄せる期待の声が多く聞かれました。今後も見学会やドーム展などを開催し、ドームの宣伝活動を行ってみたいと考えています。

ドームの管理運営組織については、ドームを含めた市の文教施設を管理運営する財団法人を年内に設立するため、現在、県と協議を進めているところです。

また、大館地区多目的ドーム活用推進協議会において、ドームの愛称を募集したところ、全国各地から約三千点の応募がありました。九月中には世界最大級の木造ドームにふさわしい愛称を決定することになっています。

平成8年度

秋田県総合防災訓練について

「八月三十日午前七時三十分ごろ、当市中心部を震源とする震度6から7の直下型地震が発生。市内では多くの建

物が損壊し、多数の死傷者がたはか、鉄道、通信、電力、水道などの施設が大きな被害を受け、数カ所から火災も発生した。」という災害想定のもとに、秋田県総合防災訓練が当市で開催されました。

この訓練は、秋田県と当市とが共催し、防災活動を迅速かつ総合的に行えるようにするとともに、市民の防災意識の高揚を図ることを目的として実施したものです。

当日は、県内外の防災関係機関や団体合わせて約一万三千人が参加し、車両百五十六台、航空機四機を動員して十七種目の訓練を実施しました。

訓練では、昨年の阪神・淡路大震災の教訓を生かし、特に、町内会などの地域住民と消防、自衛隊などの防災関係機関とが協力して行う避難所の開設、多数傷病者の応急救護、避難・街区火災防御、倒壊家屋からの救助など災害救助や応急活動に重点をおいて実施しました。

また、当市が独自に配備したポケットベルによる市幹部職員、消防団員訓練や、各公民館、公用車などに設置した防災行政無線による通信訓練、今年二月に作成した「大館市職員」の緊急対応マニュアル」ののった災害対策本部の設置運用訓練なども行いました。

訓練に際して、ご支援ご協力いただきました関係機関、関係団体並びに市民の皆さんに対し、心から感謝申し上げます。

